

常陸大宮市の新たな江戸時代像を描く1冊

『常陸大宮市史 資料編3 近世I』を  
発刊しました

常陸大宮市の江戸時代の歴史資料を調査・研究した『常陸大宮市史 資料編3 近世I』を発刊しました。藩と村、生業、災害、信仰などの関係資料計563点を活字化し、掲載しています。私たちの地域のルーツをたどる、必見の基礎資料集です。



『常陸大宮市史 資料編3 近世I』

【仕様】

B5判、994ページ、口絵22ページカラー、クロス装、上製本、箱入り

【価格】

3,500円

【販売窓口・販売時間】

市役所文化スポーツ課 8:30-17:15(土・日・祝日を除く)  
歴史民俗資料館 9:00-16:30(月曜・祝日休館)  
文書館 9:00-16:30(月曜・祝日休館)

※郵送での購入については、市ホームページをご確認ください。

本巻を担当した近世史部会長・添田仁さんから

常陸大宮市の近世の歴史資料を収録した『常陸大宮市史 資料編3 近世I』は、近世の資料編二巻のうちの一巻目です。

本巻には、慶長7年(1602)の佐竹氏の国替え以降、江戸時代の常陸大宮に関する古文書563点及びカラー口絵50点を掲載しています。水戸藩の支配と領民、村の運営と村役人の役割、農業と特産物の流通、山野や湖川の資源利用、暮らしのなかの祈りと信仰といったテーマごとに、地域社会の豊かな営みを伝える史料を厳選しました。徳川光圀の領内視察や西ノ内紙の生産・販売、そして久慈川・那珂川の江堰など、身近な歴史や史蹟にかかわる古文書も数多く紹介しています。ぜひ一度手に取っていただければと思います。



▲高部地区での調査



▲諏訪神社(野上地区)での古文書調査



▲西ノ内紙生産地等現地見学